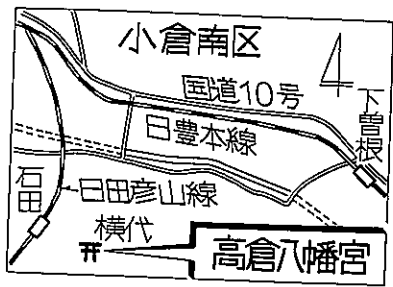


横代神楽

一〇月八日

〈北九州市〉

横代神楽は元和三年(一六一七)に始まったと伝えられているが、現存する古文書では正徳五年(一七一五)に演じられたという記録が最も古いようだ。当時、村に悪疫が流行したので、悪病退散祈願をしたところ、たちまち村中が治った。以降、高倉八幡宮で「万年願」として奉納するようになったといわれる。「大威い」「奉幣」などの舞い神楽、「みさき」「岩戸神楽」など面神楽と出雲系統を中心としながら、「折敷」「剣の舞」のような曲芸を含む大神宮神楽などバラエティーに富み、見物客をあかせない。



九州は神楽の宝庫といわれる。南九州の日向神楽、岩戸神楽、佐伯神楽、それに北部九州では平戸神楽、福岡の岩戸神楽などに代表される。この系統を引くのか、とくに英彦山や求菩提山一円から北九州市小倉にかけて、多くの神楽が伝承されていた。そのなかで、いまでも引き継がれているものの一つが横代神楽である。毎年十月八日夜、北九州市小倉南区下横代の高倉八幡宮秋季大祭に奉納される。

祭り当日は、各家庭では親類縁者や知人、嫁に行った娘、村外に出ている息子たちを迎えての「食べ祭り」。甘酒、まんじゅう、すし、おこわ、そのほか、盛りたくさんの料理をつくり、夕方からにぎやかな酒宴となる。夜中の十一時ごろになると、酒や重箱を持って高倉八幡宮の境内に三々五々集まって、拝殿の前に陣取る。ここでも、あちこちで酒宴の輪ができて、わいわいがやがやとにぎやかなこと。午前零時すぎ、宮司の祝詞奏上で神事が終わると、直ちに神楽奉納が始まる。

本殿横の支度部屋から渡り廊下を通過して、舞台の拝殿へ。白衣、黄衣、緑衣、紅衣の衣装も美しく、笛、太鼓、鐘、それに拍手もにぎやかに、ひらりひらりと舞う姿は周りの闇とかがり火にとけ込んで、神人ともに楽しんでいような幻想的な雰囲気になる。酒宴の輪からのやじや声援、曲目の間も利用して、「はな」の御礼の披露があり、見物客からわっと拍手子がわく。舞台では神楽がつきつきに演じられている。「若戸開き」では、見物客が演じる舞子を一人ひとり肩にかつぎ、拝殿から飛び降りて、五十段余りの石段を走って下の群道に捨てに行くなど、いろいろな余興があり、祭りは最高潮になる。夢中になっているうち、暗闇もうすばんやり明るくなり、明けの明星がまたたき始める。

見物客も、われにかえったかのように三々五々と家路に急ぐ。「横代の夜神楽」という。戦後一時期までのにぎわいぶりを古老は、こう表現している。

その伝統はいまも引き継がれている。神事のあと、神楽は午後八時ごろから二時間半にわたって奉納される。演目も十七番を披露する。この神楽を演じているのは、昔から上横代地区でつくっている横代神楽講社の人たちだ。明治中ごろ、再興した横代神楽を維持するため、上横代地区で愛好家が講をつくり、費用を出し合ったり、地方の祭りに出演しては、その祝儀を衣装の補修費や面具の購入に充て、いまに引き継いでいる。

演じる人は十三人。いずれも祖父の代から受け継いでおり、八十八歳から二十四歳までの男性である。純農村地帯だった同地区も都市化の波で、兼業農家がふえ、後継者の確保が悩みだが、毎週土曜日に近くの上横代公民館でけいこを続けている。この道五十年の横代神楽保存会長、白石環(六九歳)は「勤め人が多くなって、けいこや奉納の時間の調整がむづかしいが、後継者を育てて、今後も、この神楽を守っていきたい」という。この神楽が旧暦元日、北九州市門司区の和布刈神事で、ハイライトのワカメ刈りの前で演じられていることを知っている人は少ない。



十二月

二日
八日
八日
旧曆十一月の
最初の戌の日

やんさ祭り
お火焚き
鬼餅祭
冬オウンメ

大分県耶馬溪町
佐賀県鹿島市
沖繩本島
鹿児島県奄美群島

一四日
一七、一八日
三一日

銀鏡神社米良神楽
熊野神社寒みそぎ
宮崎宮ナマコ餅つき

宮崎県西都市
福岡県前原町
福岡市

九州のまつり 秋冬篇

昭和五十八年七月二〇日初版印刷
昭和五十八年七月二五日初版発行

定価一五〇〇円

著者 朝日新聞

発行人 久本三多

発行所 葦書房有限公司

福岡市中央区赤坂二丁目一四番二一号

電話〇九二七六二二八九五

振替 福岡一三九四三〇

印刷・製本 瞬報社写真印刷株式会社

落丁・乱丁本おとりかえいたします

0039-8317-0135

購入価格
1,050.-